

第5回会議での主なご意見（相談や意見・要望に応じる仕組みづくりについて）

※事：事業者、保護：保護者

発言者 ※		ご意見
<b>事業者や事業者職員の保育および保護者支援のスキルアップ</b>		
1	保護	<p>著名人を招いて開催された保育園での講演について、内容や参加者の感想などの情報をシェアして、他の保育園でも開催できるよう、区で取り組むと良い。</p> <p>どのようなことを保育園に期待しているか、事業者にスキルアップしてほしいことは何か、区民から意見を募集することも考えられる。</p>
2	事	<p>講演など外部から先生が来ることを、時々他園にお知らせしている。預かっているこどもの安全が第一なので、保育士の体制や地域性などの都合で課題はある。全員が行ける環境ではない。</p> <p>どのようにスキルアップしてほしいか、区民から意見を募集するとの意見があったが、難しい要素もある。保育園は福祉なので、サービスとは考え方が違い、ずれが出ると思う。保護者は大変なので、求めることは色々あると思うが、保育園としては、こどもたちの心と体が健やかに育っていくこと、保護者が安心して働いていけることをバックアップすることが第一である。区民が求めるスキルアップは、意見としては良いと思うが、全部を実現することは難しい。</p>
3	保護	<p>保育士の労働時間を管理して、保育園だけでなく外の世界を見る時間をつくることは、最大のスキルアップの一つだと思う。</p>
4	保護	<p>保育士のスキルアップの一つとして、自分のこどもを育てることもあると思う。</p> <p>育児休職を取り、休職後に戻ることができるような環境を整えることもスキルアップにつながるだろう。</p>
5	事	<p>LINEなどへの書き込みや苦情等の膨大な情報を、どのように区が受け止めて処理していくか、デジタル化が進む中で考えていけないと怖い。</p>
<b>保護者と事業者の相互理解</b>		
6	保護	<p>現状に運営委員会や行事などを行っているとの記載がある。色々取り組んでいただいているが、保育施設によって内容に差があるため、課題への追加として、保育施設等による実施内容の差異が挙げられる。仕組みづくりの案への追加として、すべきことの水準が統一され、どの施設でも行っているようになると良いということが挙げられる。</p>

7	事	相互理解のためには、保護者との信頼関係が一番大切である。保護者に安心してこどもを預けて仕事をしてもらえるよう、毎日顔を合わせてコミュニケーションを取ることが信頼関係を築く上で大切である。
8	保護	迎えや預ける際は時間がなく、先生とほとんど話せない。先日、保育士体験に参加し、午前中はこどもたちと公園で遊び、昼食を食べて寝かせた後、40～50分間、先生方の考えていることや方針などを聞く機会があった。普段ではなかなかできないようなコミュニケーションを取れたことが非常に良かった。その後は周囲の保護者に対して「保育士体験をしたほうが良い」ということを伝えるようにしている。保育士体験の良さが伝われば、保護者はより安心してこどもを預けられ、事業者との信頼関係も生まれるだろう。
9	保護	外部の体操の先生と一緒にこどもと遊ぶ保育園のイベントに参加した。昼食後で終了するのだが、その後、仕事に行く親のこどもと一緒に帰りたいと泣いてしまった。その際の先生の対応が、こどもに寄り添っていて安心できるシーンを見られたという印象を受けた。実際に現場で保育の様子を見ることは非常に大事だと感じた。
保護者間のコミュニケーションアップ・情報共有		
10	事	家庭的保育事業には保護者会がない。区立保育園は父母会があると思うが、私立園は保護者会がない園もあると思う。仕事をしながら父母会は大変との意見があり、父母会をやめた園があると認識している。保護者委員の方は、父母会など保護者同士のコミュニケーションの取り方についてどのように考えているかを伺いたい。
11	保護	自分のこどもが通園している園は保護者会がないが、保護者同士仲良くやっている。保護者会という形でマストになってしまうと、嫌だと思える方も出てくると思う。リーダーなど負担になるものはなく、純粋にコミュニケーションを図る手段としての保護者会というあり方が大事だと思う。
12	保護	園によっては、バザーや文化祭に向けて色々作らなければならないが、保育園の父母会で、なぜ苦労しなければならないのかとの声がある。保護者同士のコミュニケーションはなくて良いと考える人もいると思うので、バランスの難しさはある。バザーや文化祭をやるためだけの父母会であれば、いらないと思う。
13	事	父母会は各園でカラーが出る。自分の園では、コミュニケーションの場として存続している。クラス外の保護者との交流や、担任ではない保育士との関わりを通して、別の視点から保育園を知ってもらうために行っている。保護者が園に見学に来たときに、父母会はあるか、負担は大きいかなどの質問が出る、一方で、やってみて楽しかったという感想も出ている。バザーなどは、園としてのねらいがあり、ねらいの共有が保護者とされていないと、保護者はやらされていると感じ、負担になるのではないかと思う。園側として、ねらいを伝える努力が必要と感じた。

14	保護	自分のこどもが通園している園は、保護者会はあるが、役員はない。コミュニケーションをあまり取りたくない保護者もいるかもしれないので、最低限の集まる機会が設けられていれば良いと思う。積極的に交流を図りたい人は、個人的に頑張る部分だと思う。区や事業者が機会を多く設定するのではなく、保護者が必要に応じて行っていくべきと感じる。仕組みづくりの案については空欄になっているが、それはそれで良いと思う。
事業者間の情報共有と学びあい		
15	事	異業者間の交流が、公園で会った際に挨拶をして少し話す程度までしかできていない。どのように構築できるかが課題である。代わりの保育者がいない保育施設なので、休んで他施設に見学や勉強に行くことができない。家庭的保育者同士でもお互いに保育を見ることができない。地域ごとに公園に集まる、合同保育をする、一緒に散歩に行くなどの交流をしている保育者はいる。保育が独りよがりになることが一番怖いので、地域の中でこどもたちを育てることをしないと、自分一人ではどうにもならないと考えている。保育者のこと、預かっているこどもたちのことを近くの保育園の先生方にも分かっていることが大事である。決して独りよがりにならないような保育を目指していかなければならない。
16	事	認証保育所は認証保育所協議会を立ち上げたが、意見を出せる保育園ばかりではない。保育園の方が出て来ることができない園がある。問題を共有してより良い保育につなげたいが、自分たちでは力がなく場を設けることができないので、区で場を設けてもらいたい。IT化が進み、区から一方的にメールで情報が来るが、理解できない部分がある。法律などが変わった際は、区が事業者を集めて説明してもらえれば、問題点などのコミュニケーションをその場で取ることができ、より良い保育ができるのではないかと。
17	保護	法律などが変わる、変わりそうという情報は共有してほしい。国が、保育園児の親に対して、こどもがスマートフォンを使いインターネットを利用する際や、親がこどもの写真を撮る際は注意しようといった取組の案をまとめているとのことである。世の中には、小学生の写真が欲しいという悪い大人がいるので、その危険性をこどものいる親に伝えようという取組を行政が考えている。そういった情報はシェアしてほしい。先日、メルカリというフリーマーケットのインターネット版を使い、小学1年生がお金を学ぶイベントがあった。そのような情報もシェアできれば、いい学びになるのではないかと。小学生などのこどもに対し行われている、行政の情報をシェアできる仕組みをつくってほしい。
18	保護	事業者間の人事交流は、3か月、6か月、1年でもよいが、小規模保育と大規模保育で人事交換し合うなどの仕組みをつくれれば、情報共有と学びあいになると思う。

利用者の相談や意見・要望について園内で解決できないことに応じる仕組み

19	事	<p>地域型保育事業利用者の3歳からの優先的な入園の仕組みづくりを切に願っている。平成27年度からの子ども子育て支援新制度の経過措置が32年で終了する。「3歳の壁」という俗語で申し訳ないが、3歳になるときにもう一度保活をしなければならないことをとても負担に感じている保護者が毎年いる。自分たちも認可施設になり、認可に入れたにもかかわらず、もう一度、一次で落ちる、二次がだめだった、行くところがないというハラハラドキドキの1年間を過ごさなければならない。3歳からの優先的な入園の仕組みづくりは、他区でも取り組んでいると思うので、ぜひつくってもらいたい。</p>
20	保護	<p>地域型保育事業の3歳からの連携先が少しずつ設定され、幼稚園との連携が結構あると周囲の保護者から聞いている。これまでに出了見える化の意見は、保育園のサービスの紹介や保育園での事業者間交流という観点が基本だった。保育園は、区が発行する冊子などである程度まとまった情報を参照できるようになっているが、幼稚園は、個々のホームページを見ないと情報が得られない状態にあるように感じる。今後、幼稚園という選択肢が増えてくるようであれば、幼稚園に関する情報も保育園と同じように見やすくする必要がある。</p>
21	保護	<p>待機児童がいるため、転園が困難との記載があるが、転園を希望する者同士で流動性を持てるのであれば、解決できると思う。保育現場の大変さはあると思うが、流動性を高めて常にシャッフルできる仕組みがあれば、転園できないという足かせや心理的プレッシャーは解決するのではないか。</p>
22	事	<p>現状の仕組みは、転園届を提出すれば、年度途中であっても希望する園が空けば転園できると思う。事業者の立場として、家庭的保育事業は3～5人の保育をしているが、保護者から「認可保育園には入れるときに入っておかないと大変なので」と話があり、保活の大変さについて、気持ちは十分わかるので、「分かりました、転園届を出してください」と答え、翌月に転園が決まったとの知らせが来ることもある。3人のこどものうち、1人がいなくなってしまう。希望者がいなければ、空きが出る。お金の問題ではないが、3人で兄弟のように過ごした友達がいなくなり、空きがある状態が長く続くかもしれない不安がある。3人のうち1、2人が急にいなくなってしまうと、こどもたちの生活も変わる。保育園に入れるときにどうぞ転園してください、という気持ちと同時に、こどもたちへの影響があると経験上感じている。</p>
23	事	<p>保護者は、就学前まで認可されている園で安心した保育を受けたいというところに行き着くのではないかと。保育ママさんや小規模保育事業など地域型保育事業の不安は、先が見えないところだと思う。しっかりした連携があれば、1対1や3対1で保育を見守ってくれる保育ママさんや、認証保育所の良いところを活かすことができる。認可保育園に入る場合でも、1歳児、2歳児、3歳児で空きが出るところに差があるので、転園届を毎年出し続けている保護者は実際いると思う。どの施設に入っても就学前まで同じように守られていれば保護者は安心でき、地域でこどもを見ていくことができるのではないかと。</p>

#### 副会長からのご意見（要約）

一点目に、前提として、相談事項が上がらないことが第一であり、そのための仕組みづくりの案が出されていた。保育士不足が問題になっており、現場に1，2年目の保育士が多くいる状況だと思う。若手を育てることも、とても重要だが、一方で、キャリアを積んだ保育士をキャリアアップ研修に送り出す体制が課題である。研修に出したくても出せない状況が園にあると思うので、園内に研修講師を派遣する仕組みが区の支援であると良い。また、外部研修に出やすい工夫が区の仕組みであると良い。

保護者との信頼関係があることで相談が済むとの意見が出た。じっくり話をする機会がとても大事で、一緒に保育を共有する場があれば、じっくり話をする事ができるとの意見が出た。共に育てるという感覚を保護者と保育者が持てるような取組が重要で、こどもを真ん中に置いた対話ができるような関係性や場づくりを園で取り組んでいると思うが、益々取り組まれると良い。

事業者間の情報共有・学びあいで、異業者間の交流が難しい、私立と公立の交流ができず、区の調整や取りまとめがないと難しいとの課題が上がっている。逆にいえば、区の調整や取りまとめ、支援があればうまく進むのではないかと思う。単なる情報交換に終わらず、互いの保育を見合う、体験し合うことが良いのではとの意見が出た。区の支援や仕組みがあれば何かできそうである。

保育の質が上がるような仕組みが、相談や意見・要望をその場で完結する仕組みにつながるのではないか。

二点目に、言いづらいことを受け止める気軽な窓口、区の保育制度等への要望を受け止めることを専門とする窓口についてである。仕組みづくりの案として窓口の設置が出ているが、誰が相談に応じるかがとても重要である。保育のこと、それぞれの事業者のこと、保護者のことが良く分かる専門性のある方がどのような方かを議論することが重要である。